

令和5年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和5年10月16日

校番		学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	中野 尚人	定時制	本校
----	--	-----	------------	------	-------	-----	----

学校関係者評価 (中間評価)	A	とても適切である。	B	概ね適切である。		
	C	あまり適切でない。	D	まったく適切でない。	N	判定できない。

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	適切である。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	適切である。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	・「生徒の主体性を引き出す授業改善」という目標に向けて、先生方が研修等により、「主体性」について共通認識を持つことが取組の適切さにつながるのではないかと。
評価結果の分析の適切さ	B	・母数(生徒数)が少ないので肯定的評価のパーセントという評価指標が、どこまで生徒の成長や教育的効果を表しているのか。以前も指摘したように、実際の生徒の声や思いなども示すようにすると分析の適切さが評価できる。 ・生徒支援部で、アセスのデータ(学校適応感)も分析し、教育活動(取組)の改善に役立ててほしい。
今後の改善方策の適切さ	B	・他の定時制高校の先進的な取組を情報共有すると案外すんなりと行くことがある。福山地区の定時制高校の中には、検定への取組、インターンシップ、オープンキャンパスへの参加など実績を上げているものもある。また、ハローワークとの新規学卒者の就職試験への取組がシステム化している学校もあり、参考にできると思われる。 ・授業改善の軸は何なのか。「わからないことがわかるようになる」「できないことができるようになる」という授業満足度を高めるためにも、「個別最適な学び」に加えて、「対話的・協働的」な学び合いの授業づくりを支援の先生方(マンパワー)を活用しながら、生徒同士の「相互交流・相互理解・相互援助」の場を授業の中に仕組んでいく必要がある。
総合評価	B	・生徒が地域や社会とつながる「しかけ」を数多く設けており、その内容も事後の分析に基づいてバージョンアップしていることがよく分かる。今後できるだけ、生徒が役割をもって考えながら取り組める内容を盛り込んで、生徒の成長を支援してほしい。 ・キャリア教育やホームページの充実が図られているが、アウトカムの視点で分析していくことが大切。例えば、多様なキャリア教育の機会やホームページの更新回数が増えたことが、生徒の自己肯定感や成長促進にどのように影響を与えているのか、生徒の姿から分析評価することも大切だと思われる。